

スポーツ応援行動に関する社会学的研究  
— Jリーグにおけるアビスサポーターを中心に—  
○立木宏樹（福岡大学）

大谷善博 松尾哲矢（福岡大学） 三本松正敏（福岡教育大学）

## 1・はじめに

1998年6月、Wカップフランス大会が開催され、世界中の人々に大きな感動や興奮を与えた。スタジアムには多くのサポーターが押し掛け、顔にペインティングをし、派手なパフォーマンスで、熱心に自国の応援をする姿はまだ記憶に新しい。日本人も同様に、代表のユニフォームに身を包み、ネイティブアイデンティティのもと声援を送る姿が見られた。国内でも、スタジアムにおいて、ひいきチームを応援するサポーターの姿を見てとることができる。一般に見るスポーツの応援行動パターンとしてはスポーツにおけるゲーム観戦や、テレビ、ラジオなどのメディアを通してのスポーツ視聴など、その関わり方の没入レベル、あるいは、ある特定の選手やチームへの好意度に基づく応援レベルによって様々なパターンが想定される。なかでも、没入レベルが高く、好意度に基づく応援レベルが高い行動パターンとしてゲーム時の直接的応援行動があげられる。

プロスポーツにおいては経済的成立要件、あるいは、みせるスポーツとしてのプロスポーツという意味においてスペクテーターの存在が必要不可欠であり、プロスポーツは、パフォーマンスとスペクテーターの相互関係性において成立しているといっても過言ではあるまい。換言すれば、スペクテーターが感動し、興奮するいわば、スペクテーターの求めるパフォーマンスができるかどうか、プロスポーツの成否の鍵を握っているとも言えよう。その意味で、スペクテーター、中でも最もゲームに影響を与える、直接的に応援行動を行うサポーターやファンの行動やその在り方に注目することによって、プロスポーツの成立過程やそのありようを探ることが可能となろう。そこで、本研究ではスポーツ応援行動の基礎研究として、サポーターやファンのゲームにおける直接的応援行動に着目し、その応援行動の規定要因について検討しようとするものである。

## 2・先行研究の検討

「みるスポーツ」に関する研究はこれまで数多く行われている。まず、スポーツ観戦者の概念について高橋<sup>1)</sup>は、ケニヨンのスポーツ役割のモデルからスポーツ観戦者を享受的な参与者いわゆる消費者と位置づけ、さらに実際に観戦する観戦者を直接的消費者、マスメディアを媒介とした消費者を間接的消費者として定義づけた。斉藤<sup>2)</sup>は、観戦行動の分類と要因をスポーツイベント経営の視点から報告し、「ゲーム観戦能力」、「選手との社会的関係」が選手応援動機に影響していることを明らかにしている。また、原田、藤本<sup>3)</sup>らはスポーツ観戦行動の過去の研究をレビューし、女子大生を対象にカレッジ・スポーツの観戦者の特性を分析し、観戦行動に影響を及ぼす要因として、「ポジティブなライフスタイル」、「スポーツ情報の多さ」、「準拠集団所属の有無」などの影響を指摘している。さらに、宮田<sup>4)</sup>らは、「準拠集団所属の有無」がスポーツ観戦頻度に影響している点を明らかにしている。

一方、丸山<sup>5)</sup>は、スペクテータースポーツの機能として、プレーヤー、チームと自己の同一化、ジャンルにおいて顕著である常軌性からの逸脱と主体性の回復、逆機能としての観客の暴動における娯楽としての機能と、人々が感情的昂揚と集団との一体感の中で人間實在の根源に触れるものとしての儀礼の機能、といった2つの機能を持っていると説明している。これらの研究からもわかるように、

従来の研究は経営学的な視点から応援行動を規定する要因を探ったもの、あるいは、「みるスポーツ」と「するスポーツ」の関係性を通して、「みるスポーツ」の持つスポーツ的、社会的、宗教的機能<sup>9)</sup>に注目しているものが多い。本研究は、前者に関わる研究であるが、これら経営学的な視点による規定要因分析に加え、さらなる詳細な分析が求められていると言えよう。

### 3・研究の目的

本研究では、「みるスポーツ」の中でもサポーターやファンがある特定の選手、チームに対して行う直接的応援行動に着目し、スポーツ応援行動を規定する要因を分析、検討する。

### 4・分析の枠組み

本研究では、スポーツにおいて直接的応援行動を行っている人を対象に、応援行動の没入レベルを、組織された応援団やサポータークラブの入会の有無やスタジアムでの観戦経験度やその熱中度によって分類する。そして、これら没入レベルを従属変数とする。そして、そのスポーツ応援行動の没入レベルを規定する要因を社会化論に依拠し、個人的属性、重要な他者、社会的状況から独立変数を設定し、多変量解析を用いて分析を行う。

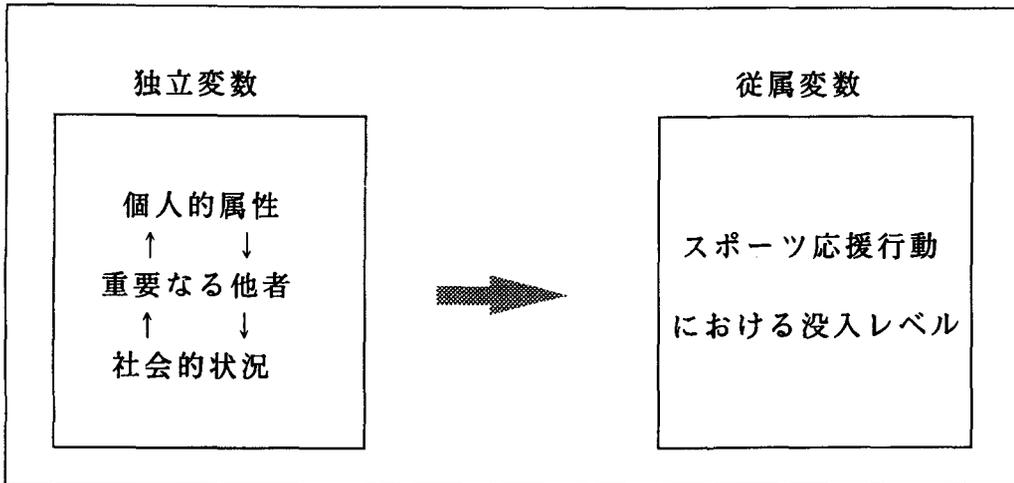


図 分析の枠組み

### 参考・引用文献

- 1)高橋豪仁：「スポーツ観戦についての考察」 徳島文理大学研究紀要45号 1993 pp35-47
- 2)斉藤隆志：「観戦行動の分類と要因」 筑波大学体育科学系紀要Vol.14 1991 pp39-53
- 3)原田宗彦、藤本淳也、内海俊朗：「スポーツの観戦行動に関する研究 ―カレッジスポーツと観戦者としての女子大生について―」 大阪体育大学紀要第23巻 1992 pp39-45
- 4)宮田和信、三島和康、野川春夫：「スポーツ観戦者に関する研究 ―第二次参与と第一次参与の関係に着目して―」 鹿屋体育大学学術研究紀要第17号 1997 PP85-91
- 5)丸山富雄：「スペクテーター・スポーツの社会的機能に関する考察」 体育社会学研究〔編〕 スポーツ参与の社会学 体育社会学研究6 道和書院 1977 PP213-224
- 6)前掲書1)